

簡易耐震化工法検討委員会臨時合同会議 議事録（案）

日 時：2012年11月28日 14:00～16:00

場 所：徳島大学工学部建設棟 A508

出席者：佐藤(弘)、近藤、高橋、日下(フレッセ)、佐藤(幸)、松田、中飯、内野、林（事務局）

1. 建具単体試験とフレーム試験結果速報について

別添資料「簡易耐震フレーム試験速報(坂田)」を基に意見交換

2. 木質系簡易耐震シェルター（以後、簡易シェルターと略す）について

日下氏に参加いただき、別添資料「H23年度木質耐震シェルター研究概要」、「格子(松田)」を参考に既存の耐震シェルターと簡易シェルターについて意見交換、今年度の方針を協議

○既存の耐震シェルター

- ・木造で地震の水平力に耐えるのは非現実的。家屋に固定しないのが大前提。
- ・家屋本体との間隔や設置方法などのきまりごとはない。
- ・耐震シェルターを既存の床にそのまま置くのは重過ぎて問題あり。
- ・新たに束を立ててその上にシェルターを設置。つまり固定している。
- ・シェルターと家屋間で床の段差を無くすには結局固定することになってしまう？
- ・地震時にシェルターと家屋にはさまれる可能性もある。
- ・ストッパーなどで少しは動いてもいい構造を考える？
- ・6畳より大きくなると、耐震改修した方が安くて現実的。

○簡易シェルター

- ・既存の耐震シェルターより小型とする。
- ・簡易シェルターの必要耐力は耐震シェルターと同じ考え方でいく。
- ・鉛直方向の荷重は（単位面積重量×シェルター上面面積の2倍）としているが、簡易シェルターで上面面積が小さくなくても、倒壊して載ってくる家屋の重量は同じなので減免しないほうがよい。
- ・地震による水平力は考えていないが、上部の物が45°の角度で衝突する想定で計算。
- ・このような簡易シェルターを開発するには年度内では時間不足。
- ・松田さんより新たなシェルター案の提示。いずれ検討していきたい。

○今年度の方針

- ・フレッセとの協力体制の下、施主、大工さんなどの要望など収集、整理する。
- ・家屋との空き寸法や接続方法について、本来の性能が出せるような工法を検討する。
- ・既存家屋の状況に応じたマニュアルを作成し、現場での混乱をなくす。
- ・よその耐震シェルターの地震時（阪神、淡路や東日本大震災）の実績を収集する。
- ・今年度は、耐震建具補強のバリエーションとしての家具補強を検討する。

3. その他

- ・次回第10回WG：日時は別途連絡 @徳島県木材利用創造センター